

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名	
精神障害者と福祉実践Ⅰ	2	1～	スクーリング科目	青木 聖久	
テーマ	当事者の生の声等を通して、精神障害者のことを理解すると共に、社会福祉実践について学ぶ				
科目のねらい					
【キーワード】 精神障害者、ソーシャルワーク、家族、精神保健福祉士、ネットワーク					
【内容の要約】 本科目では、統合失調症を中心にして、精神障害者のことを様々な側面から知ることを目指す。そこで、精神障害者や家族が、これまでどのようなプロセスを辿り「いま・ここに」いるのかや、いかなる社会的背景のなかで暮らしているのかについて、着眼する。また、精神保健福祉士が、どのような魅力と可能性を有する専門職であるのかについても、第一線で活躍している者の話等を通して、理解を深めることを目指すものである。さらに、「自分が精神保健福祉士になる・精神保健福祉士を活用する」等、様々な「自分及び自分たちができること」について考える機会とする。そして、精神障害者や家族に対する実践的な支援のあり方について学ぶことを目的とするものである。 ●精神科を持つ病院や福祉施設で精神保健福祉士として勤務した経験のある教員が、精神保健福祉に関する講義を行なう。 【日程・スクーリング会場】 https://www.nfu.ne.jp/open/image/lesson/schooling_schedule.pdf ※変更の場合は随時お知らせします					
【学習目標】 精神障害者や家族の理解、彼らに対する精神保健福祉士の役割の基礎的な部分について説明することができる。 精神保健福祉に関する課題を抱えた人や家族とコミュニケーションを図ることができる。 精神障害者や家族、彼らを取り巻く社会の課題の発見と、その解決について取り組むことができる。					
授業のながれ 2日間のスクーリングの日程については、1ヶ月程度前にnfu.jpで案内する（下記は2021年度例）					
1. 精神障害者理解	16.				
2. 精神障害者を取り巻く環境	17.				
3. 精神保健福祉士が展開するソーシャルワーク実践	18.				
4. 当事者としての精神障害を有する本人と家族の話を通して考える	19.				
5.	20.				
6. グループ討議	21.				
7.	22.				
8. 精神保健福祉分野の仕事について	23.				
9. 社会福祉実践における社会資源の活用	24.				
10. 精神保健福祉ボランティアの意義と役割	25.				
11. 福島での視察学習会を通して考える	26.				
12. 精神保健福祉分野における社会福祉実践	27.				
13. 精神科医療に所属する支援者（ゲスト講師）の話	28.				
14. グループワーク	29.				
15. ソーシャルワーカーとして精神障害者にかかわる（まとめ）	30.				
準備学習の内容・学ぶ上での注意			事前事後学習		
日本における地域精神保健福祉活動の草分け的存在である「やどかりの里」（埼玉県）や「べてるの家」（北海道）のこと等を調べ、学びを深めてもらいたい。一方で、社会経験を活かした社会福祉実践への志向として、次の図書をご覧いただきたい。 【参考図書】 青木聖久・田中和彦編『現代版・社会人のための精神保健福祉士』学文社、2020。			事前	受講生の「いまある現状のなかで、自分ができること」について、事前に考えておくことが望ましい。	5時間
			事前	関連図書を読む。	10時間
			事後	精神保健福祉法、障害者基本法、障害者総合支援法等を調べ、相互の関連性等にも目を向けてもらいたい。	10時間
成績評価の方法					
期末試験（筆記・Web・レポート・最終授業内） 100% 授業内でのレポート・課題等 0% その他 0%	基本的には、科目修了試験の内容と授業への積極的な参加による。本科目では、グループ討論を重要視している。そのことから、グループ討論の講の出席は必須として位置付ける。				
テキスト					
■レジュメを使用する					